

開講年度	令和6年度	開講課程	博士後期課程
授業名	器官病態内科学特別演習		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	一	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病、膵β細胞障害 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器内科画像診断 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体		
担当教員 (下線:科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、准教授 森田修平 (呼吸器内科学) 教授 <u>山本信之</u> 、准教授 中西正典、講師 早田敦志 (循環器内科学) 教授 田中篤、准教授 北端宏規、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹、講師 山野貴司、講師 尾崎雄一、助教 太田慎吾、助教 樽谷玲 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一 (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田慈	
授業の概要	薬		
到達目標	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる新知見の探求のための実験を実施できる。  (呼吸器内科学) 呼吸器疾患の成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解する。  (循環器内科学) 循環器内科学における最新の診断学の方法論について理解する。  (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病・透析医療の最新の研究動向と研究手法を修得する。  (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患における自己抗体・抗核抗体の臨床的意義を自らのデータより考察することができる。		

授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムの解析手法の修得：糖尿病の発症に至る分子メカニズムについて解説し、そこから考えられる最適な治療について討論する。また、新知見の探求のための実験手技獲得に向け指導する。（松岡孝昭／森田修平）</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器内科関連の最新のデータの紹介とディスカッション：呼吸器疾患のトピックスについて講義を行う。課題を選定し、それに対して発表および教員と議論を行うことにより、より専門的な知識・技能を修得する。（山本信之／中西正典／早田敦志）</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法：循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法の最新の研究手法および成果を学び、それらを用いた臨床課題の解決能力を涵養する。（田中 篤／北端宏規／黒井章央／塩野泰紹／山野貴司／太田慎吾／尾崎雄一／樽谷 玲）</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病・透析医療の最新の研究動向：慢性腎臓病・透析医療に関する最新の論文を抄読・討議することで、最新の研究動向ならびに研究手法を修得するとともに、新たな治療法探索のための課題について学習する。（荒木信一）</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特定の全身性自己免疫疾患に対する自己抗体・抗核抗体の測定に焦点を絞り、同領域に関する過去の報告を研究室内で検討するとともに、学会発表などを通じて他の研究者とディスカッションできるような知識修得のための授業を行う。なお関節リウマチについては主として藤井が、その他の膠原病については岩田が担当する。（藤井隆夫／岩田 慶）</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特に指定しない。</p>